

大学全体の3ポリシー

学士課程

【DP（ディプロマ・ポリシー）】（令和6年度以降入学生）

島根大学は、本学が掲げる大学憲章を踏まえ、学生が各学部・学科等の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身に付けたときに当該学位を授与します。

①幅広い教養・豊かな人間性・自己理解

文理の枠を超えた幅広い教養の修得や文化・芸術への理解を通じて知的基盤と豊かな人間性を形成し、生涯にわたって主体的に学ぶことができる。

②情報収集・分析・論理的思考

論理的思考のもとで、さまざまな情報を収集・分析し、課題に応じて表現することができる。

③コミュニケーション・協働・社会参画

他者と対話しながら、問題解決のために協働し、社会に主体的に参画することができる。

④グローバル／ローカルなマインドとリテラシー

地球環境・地域環境や異文化・地域性への理解、SDGsの観点、高度な外国語運用能力をもってグローバル／ローカルな活動に参画できる。

⑤課題発見・探究・解決（社会実装）

現代社会の課題を発見・探求し、学修成果・研究成果を活かして新しい視点や発想で解決にあたることができる。

⑥価値創造（挑戦性、社会創造）

高度な専門性を有し、それを更新しながら、既存の専門分野の枠組みを超えた先端的な領域に挑戦し続け、新たな価値の創造に向かうことができる。

〔令和6年1月15日教育研究評議会議決〕

【CP（カリキュラム・ポリシー）】（令和6年度以降入学生）

島根大学は、学位授与の方針で示す能力を学生が身に付けることができるよう、次に掲げる方針のもと、各学部・学科等において体系的な教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程の編成の方針

全学 DP が定める幅広い教養・豊かな人間性・自己理解、情報収集・分析・論理的思考、

コミュニケーション・協働・社会参画，グローバル／ローカルなマインドとリテラシー，課題発見・探究・解決（社会実装），価値創造（挑戦性，社会創造）の6つの資質・能力を涵養するため，下のように教育課程を編成する。

①全学基礎教育

現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために，すべての学士課程に所属する学生は「全学基礎教育」を履修する。全学基礎教育は，下の4つの科目群からなり，それぞれの学修目標とする資質・能力に関連する授業科目によって構成される。

①島大 STEAM 科目群：現代社会の求める新たなリテラシーを身に付ける

「島大 STEAM 科目群」では，現代社会の課題を思考し，将来に向けた創造的な解決策を導き出す方法の修得を目指す。具体的には，数理・データサイエンスの知識・技能や，情報を読み解く批判的思考力，創造的解を導くデザイン力，新たな価値の創造に挑戦するアントレプレナーシップの涵養を目標とした授業科目を開設する。必修科目として「数理・データサイエンスへの誘い」と「情報科学」がある。

②ユニバーサル科目群：国際社会で必要とされる基礎的知識・技能と地球規模の視野を身に付ける

「ユニバーサル科目群」では，国際社会で主体的に活動するための高度な外国語運用能力や，地球規模の問題を捉えるための視野，多様性を尊重し国際関係や異文化を理解して他者と対話できる能力を涵養することを目標とした授業科目を開設する。必修科目として「英語（I，II等）」と「初修外国語（中国語，フランス語等）」，「SDGs 入門」がある。

③地域創生科目群：山陰地方の地域の問題解決に資する能力・資質を身に付ける

「地域創生科目群」では，山陰地方の自然環境・人間社会への理解を深め，その課題発見・問題解決能力を向上させること，問題解決にあたって他者と協働するためのコミュニケーション力を涵養することを目標とした授業科目を開設する。

④教養育成科目群：豊かな人生の基盤となる幅広い教養を自己の興味・関心に応じて身に付ける

「教養育成科目群」では，自然・人間社会と多様な学問分野との関わりに対する理解を獲得すること，自己の身体・精神を生涯にわたって向上させる意志を育むこと，市民社会の主権者としての基礎的素養を身に付けることを目標とした授業科目を開設する。

②島根大学クロス教育

学修者本位の柔軟な教育システムの下での自己調整型学修により，自己のもう一つの成長の可能性を発現させるため，「島根大学クロス教育」を選択履修する。島根大学クロス教育は下の①から④の5つの教育プログラムカテゴリからなり，自己が定める成長の方向性や興味・関心に応じて，学生自身が主体的に教育プログラムや授業科目を選択する。

①テーマ別プログラム（10単位）

特定の学問分野にかかわらず，現代社会の諸課題に関連したテーマを深く学ぶ教育プログラムを開設する。各教育プログラムでは，テーマに関する知識や視野の獲得，実践

性の向上を図り、学生自身の専門性を活かす方法を身に付けることができるよう授業科目・カリキュラムを構成する。

⑥他学部学問基礎プログラム（10単位）

各学問分野の基礎的な知識の修得や、各学問分野と社会とのかかわり、当該分野固有のものの方見方・考え方等を学修する教育プログラムを開設する。プログラムでの学修により、学生が所属する学士課程の学びとの対比を通じて両者の視点を自らのものとしてすることができるよう授業科目・カリキュラムを構成する。

⑦同学部異領域専門プログラム（10単位）

学士課程ごとに指定された学部共通科目等に加えて、さらに他学科・他コース・他領域の専門性の高い授業科目を履修する。複数の専門の方法や視点を活かした研究を遂行できるよう授業科目・カリキュラムを構成する。

⑧アドバンスプログラム（20単位）

自らの将来を展望したり、大学での学修を自律的に設計しながら、テーマや方法を組み合わせることで学びを進展させ、自己の成長の幅を拡げることを目的とする。⑥～⑦のうち2つのプログラムを履修するか、または、いずれか1つのプログラムに加えて10単位の学びを主体的に設計して履修する。

⑨トランスボーダープログラム（30単位）

⑧に加えて、地域課題探究力、コーディネーション力、グローバル展開力などトランスボーダーな探究力を身に付けるプロジェクト型の教育プログラム（10単位）を履修する。学生の自主企画プロジェクトをベースとして、学びを深化させるプログラムとなるよう、プロジェクトの企画から試行、実践までをプロセスとして学修していく。

③専門教育

学士課程ごとに、専門性の修得・向上を促す専門教育カリキュラムを構築する。専門教育では、学問分野ごとの知の獲得だけでなく、全学基礎教育や島根大学クロス教育での学びもふまえて、獲得した専門知を社会実装や社会変革に活かすこと、分野の枠を超えて未知の領域に挑戦し続けることができるようになることを目指す。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

①学生自身が入学までに培った探究心や探究力（学びのタネ）を活かして学修できるよう、特に全学基礎教育や島根大学クロス教育においては、必修科目等を除いて可能な限り授業科目や教育プログラムを主体的に選択できるようにする。

②学修方法としてアクティブラーニングを重視し、他者との協働学修やフィールドを活かした体験学修、プロジェクトベースの学修など学生の主体性が発揮される機会をつくる。

③教室での面接授業だけでなく、必要に応じて遠隔授業（オンデマンド型等）も組み合わせた学修方法を用い、知識の修得・定着を促す。また、すぐには訪れることが困難な遠隔地（他地域・海外）等と結んだ同時双方向型の遠隔授業も、カリキュラム上の必要に応じて実施する。

3. 学修成果の評価の方針

- ①授業の成績評価は「成績の評価に関する取扱要項」にしたがい、試験等の成績に平常成績及び修学状況等を考慮し、到達目標の達成度に準じて評価を行う。評価方法については、到達目標との対応関係や評価の割合等とともに、各授業科目のシラバスに明示する。また、複数の観点から評価を行う多面的評価を重視する。
- ②学生自身の学修過程（学修目標や学修成果等）を学修ポートフォリオに記録して蓄積し、個々の学生の成長を評価して学修指導に活かす。
- ③成績評価について疑義があるときは、全学基礎教育科目や全学的に開講される教職科目については「成績の評価に関する取扱要項」にしたがって、専門教育科目については各学部で定められた手続きにしたがって、不服申し立てをおこなうことができる。

〔令和6年1月15日教育研究評議会議決〕

【AP（アドミッションポリシー）】（令和7年度以降入学生）

島根大学は、本学が掲げる大学憲章を踏まえ、次のような人を求めます。

《求める人材像》

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、豊かな人間性と高度な専門性を身に付け、世界的視野を持って平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成するため、次のような学生を国内外から求めます。

- ①大学での学びに必要な高等学校段階の基礎的学力を有し、自然、社会とその歴史、学術文化、人間などに対する知的好奇心と高い学修意欲を有する人
- ②地域社会や世界の諸課題について自らとの関係において課題を発見し、必要な情報を収集しながら、論理的思考のもとで探究し続けようとする人
- ③価値観の異なる他者とも、協働や対話を通じて相互理解を図ろうとする人
- ④深く思考する過程を通じて自ら判断し、自分の意見や着想を分かりやすく表現しようとする人

〔令和6年2月13日教育研究評議会議決〕

《入学者選抜の基本方針》

これらの人を受け入れるため、各学部・学科・課程及び各研究科・専攻等において、適切な選抜方法を定め入学者選抜を実施します。

各学部・学科別のアドミッションポリシー（入学者受入方針）は、ディプロマ・ポリシー

(卒業認定・学位授与の方針), カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) とともに下記ページに掲載しています。

- 法文学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

- 教育学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

- 人間科学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

- 医学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

- 総合理工学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

- 材料エネルギー学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度入学生，AP：令和5年度・6年度入学生\)](#)

- 生物資源科学部 [\(DP・CP：令和6年度以降入学生，AP：令和7年度以降入学生\)](#)
[\(DP・CP：令和5年度以前入学生，AP：令和6年度以前入学生\)](#)

大学院課程

【AP (アドミッションポリシー)】

島根大学大学院は、本学が掲げる大学憲章を踏まえ、次のような人を求めます。

《求める人材像》

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、豊かな人間性と高度な専門性を身に付け、世界的視野を持って平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成するため、次のような学生を国内外から求めます。

- ①学士課程 (博士後期課程にあっては博士前期課程) 相当の各専攻分野を中心とする専門的知識・技能を身に付けている人
- ②学術研究や学問的探究に対する強い意欲と明確な目的意識を持ち、新しい時代を切り開く研究を目指して絶えず研鑽し、議論を通じて他者との相互理解を深めようとする人

- ③国内外の諸問題に関心をもち、多様な人々との協働を通して課題を解決に導く意欲をもつ人
 - ④社会人経験等により培われた専門的知識・技能を高度化、深化させたい人
 - ⑤地域社会や国内・国際社会の様々な場面で、高度専門職業人として、産業界や行政機関、教育・研究・医療機関の諸活動において、リーダーシップを発揮し活躍したい人
- 〔令和4年6月13日教育研究評議会議決〕

《入学者選抜の基本方針》

これらの人を受け入れるため、各学部・学科・課程及び各研究科・専攻等において、適切な選抜方法を定め入学者選抜を実施します。

各研究科（大学院）のアドミッションポリシー（入学者受入方針）は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とともに下記ページに掲載しています。

- [人間社会科学研究科](#)
- [教育学研究科](#)
- [医学系研究科](#)
- [自然科学研究科（博士前期課程）](#)
- [自然科学研究科（博士後期課程）](#)